

# 平成30年度事業報告

## ☆一般情勢

子どもの権利条約は、1989年に国連総会で採択され、1990年に国際条約として発行された。現在(2019年2月)196の国と地域がこの条約を締結している。日本は1994年に批准した。国連子どもの権利委員会は批准国に対し、子どもの権利条約に関し実施状況を調査している。日本は2017年に第4回・第5回統合定期報告書を提出し、本年3月に、国連子どもの権利委員会より所見が出ている。児童福祉に関わる所として、子どもへの暴力(体罰、児童虐待と法的規制)、家族・家庭支援(保育制度改革、児童相談所、社会的養護)、及び子どもの健康(休息、睡眠、虫歯、低体重等)である。

平成27年児童福祉法の改正により子どもの権利条約は法の中に明記させた。国連子どもの権利委員会の所見の中には、施設養護に対して厳しい話もあるが、子ども達がこの世に生まれた存在に対して胸を張って人生を過ごせるよう、権利擁護に対して今後とも力を注いでいきたいと考える。

ここに法人及び三施設(地域小規模児童養護施設)の努力目標の達成度について報告致します。

## 努力目標達成度

### 1 法人(本部)

- 1 児童の人権擁護に最大級の注意を払うと同時に、困難な実態を直視し、各施設の処遇の充実を図る。
  - ・課題に対して継続的に丁寧な対応を行った。
- 2 いろいろな行事を通して、法人後援会役員と乳児・幼児・児童・職員との交流を深める。
  - ・法人3施設の行事に法人後援会役員が参加し、目的が達成された。
- 3 3施設の連絡会(1ヶ月に1回以上、理事長も含む)の定例化。情報交換・処遇の充実・調整を図る。
  - ・3施設連絡会の定例化を確立した。また、法人事務職員の参画による運営の充実が図れた。

## 2 養護園・ミニトクホーム・善峰ホーム

養護園の主催する4月に実施した「桜まつり」において、本園が提供した食材を原因としたノロウイルスによる食中毒を発生させ、京都市医療衛生センターの指導の下に改善に努めた。今後も衛生管理に万全を期したい。

- 1 子どもの権利擁護の視点を重点的課題とする。
  - ・平成29年度同様に支援向上委員会の定例化を行えた。
  - ・定例の第三者委員に新たに前大原野小学校校長、京都府介護支援専門員会会長の2名を迎え、3名体制で実施した。
  - ・子ども達の意見、要望の徴収について、より気軽に意見を子ども達が出せるように意見箱を追加した。
- 2 職員の資質向上に務める。
  - ・前施設長による、年代別、テーマ別、事例検討会など園内研修の充実を図る。
  - ・会議の活性化にむけて取り組みを行なう。
  - ・里親委託の不調による児童があり、再度、措置を受け入れた。
- 3 児童養護施設での今日的課題である、地域化、小規模化及び個別化に向けた取り組みを行う。
  - ・開設している3か所の地域小規模児童養護施設「ミニトクホームさくら・もも」「善峰ホーム」は順調に運営できた。
  - ・向日市に4箇所目の地域小規模児童養護施設「青雲塾ホーム」開設の準備を行なった。

## 3 乳児院

社会的養護における新たな乳児院の役割を担う

- 1 専門的養育機能の充実
  - ・定員20名、入所児童7名（内4名が被虐待児）、延べ日数5940日、一時保護委託児23名、延べ日数491日、合計延べ日数は6431日だった。退所児童は12名、内訳として家庭引取7名、里親委託1名、養護園移籍2名、障がい児施設移籍2名だった。
  - ・入所児童6名が病虚弱児や障がいを持つ児童であり特別な支援を必要とした。
- 2 小規模グループケアの充実
  - ・乳児、幼児ホーム合わせて4ユニット体制を組み、担当性を意識した養育を行うことで、大舎制では得にくい子どもの成長発達が顕著に観られた。また、家族支援ルームを利用し、更に少人数による家庭的養育の実践を行い一定の成果があった。

### 3 早期家庭復帰に保護者支援の充実

- ・ 支援の難しい保護者に対して、児童相談所や関係機関と連携し、それぞれのケースに応じた家庭支援を行った。

### 4 職員の人材確保、人材育成について

- ・ 養護園と連携しながら人材確保に取り組んだ。また、研修計画に基づいて施設内外の研修を積極的に取り入れ、人材育成に努めた。
- ・ 年度途中で退職する職員や長期間病欠する職員がおり、厳しい施設経営となった。

## 4 岡崎幼稚園

### 1 ワークライフバランスの取組み

- ・ 職員体制の強化について、保育士の配置は基準を上回る体制ができた。しかし、調理室の体制は、雇用した栄養士が病気のため、年度途中で退職になるなど、十分な体制がとれなかった。
- ・ 業務終了後に実施していた職員会議を、日中にするこことで、職員の負担を軽減した。

### 2 保育内容の充実

- ・ 計画の内容をより細かく設定することで、内容の充実を図った。
- ・ 障がい児の受入れも2年目を迎え、環境の整備を積極的に取組んだ。その結果、情緒面での向上が顕著に表れた。
- ・ 大学教授による絵画研修を1年間続けたことでの成果がみられた。
- ・ 職員にアンケートを実施し、今の保育園に望まれていること、今の保護者の現状等を客観的に見直すことで、今後の自身の取組みの課題とした。

### 3 子育て支援の強化

- ・ あそぼうクラブは予定通り実施できた。
- ・ 子育て支援のためのネットワーク会議は、予定通りに実施できたが、参加機関が多く内容面で課題が残った。
- ・ 中学チャレンジ体験の希望者はいなかったが、高校生職場体験実習には、3名の参加があった。
- ・ 保護者会との行事等では、連携を密にとり実施できた。

### 4 調理室の充実

- ・ 安心、安全、おいしい食事の提供を目指したが、いくつかの課題が残った。
- ・ 今年度は、調理室の充実を図り調理室の配置を増員したが、退職により成果が上がらなかった。
- ・ 誤食防止については、事故もなく取組めた。

- ・ 保育士との連携により「食育」の実施は、取組等で課題を残した。クッキングは、予定通り実施できた。

## 5 環境の整備

- ・ 紙おむつの園での回収、処分を開始した。
- ・ 市営住宅のブロック塀撤去、フェンス設置工事实施に伴う、園庭ステージ補強工事实施。
- ・ ベランダ、柵等ペンキ塗替え工事实施。
- ・ 全館 LED 照明入替工事实施。
- ・ 害虫駆除機（クッカノン）導入。
- ・ 今年度、大阪北部地震・大雨洪水・大型台風上陸等想定外の災害により、安全対策に課題を残した。

## 6 地域との連携

- ・ 地域に対しての行事等は、予定通り実施できた。

## 7 岡崎幼稚園創立100周年事業に向けた準備は、予定通りに実施できた。